

2023.12
H-SATT

農政局だより@ひょうご

〒650-0024

神戸市中央区海岸通29 神戸地方合同庁舎

TEL:078-331-5924 Email:hyogo28_hsatt_kinki@maff.go.jp



Mini 農業女子会 in hyogoが開催されました



会場内の様子

令和5年12月5日（火）、ひょうごアグリプリンセスの会主催（協力：近畿農政局兵庫県拠点）で、会場の弓削牧場「チーズハウス ヤルゴイ」（神戸市）において、兵庫県内の各地域で活躍される女性農業者32名が参加し、『Mini農業女子会 in hyogo』が開催されました。

はじめに女性農業者全員から各自の取組紹介、次に、フードバンク関西から「食をつなぐフードバンク活動」、農林水産本省から「女性がいいき働きやすい農業・農村を目指して」の説明がありました。

「兵庫農業の魅力発信に向けて」「次世代へ繋ぐ農業の取組」をテーマにした意見交換会では、参加者から、新規就農者の定着、地域の活性化、販路の確保、環境問題、農業委員への女性の参画など、自身や地域が抱える課題について、活発な意見交換が行われました。

農林水産省では、これからも「農業女子プロジェクト」をはじめ、様々な施策を通じて、女性農業者の活躍を応援してまいります。



弓削牧場「チーズハウス ヤルゴイ」



「農業女子プロジェクト」とは

社会全体での女性農業者の存在感を高め、女性農業者自らの意識の改革、経営力発展を促し、職業としての農業を選択する若手女性の増加を図る取組みです。

ホームページは こちら ⇒ <https://nougyoujoshi.maff.go.jp>



農業女子PJ

「行くぜっ！につぼんの和食」キャンペーンを実施中
～「和食」のユネスコ無形文化遺産登録10周年！～

農林水産省は、本年12月4日（月）に和食がユネスコ無形文化遺産に登録されて10周年を迎えたことから、新たな発想で「和食文化の魅力」を若者・子育て世帯に発信していく「行くぜっ！につぼんの和食」キャンペーンを実施しています。

- 1.目的：**和食文化の魅力や次世代への継承の重要性を伝えるメッセージを発信することで、我が国が誇る和食文化を次世代に繋げていく活動を促進する「きっかけ」をつくることを目的としています。
- 2.実施期間：**令和5年12月4日（月）～令和6年12月3日（火）まで
- 3.キャンペーンの内容：**（1）賛同者の募集及び和食の保護・継承活動の促進
（2）ロゴマークの作成
（3）特設サイトの開設
- 4.参加方法：**キャンペーンの賛同申請フォームにアクセスし、賛同申請等を行ってください。

詳しくは <https://www.maff.go.jp/j/press/shokuhin/wasyoku/231204.html>



ロゴマーク

行くぜっ！
につぼんの和食

ユネスコ無形文化遺産登録10周年



～お客様の“美味しい”を励みに～ ＜姫路市 あかね農園＞

姫路市で、農薬や化学肥料を原則使用せずに(※)農産物を栽培する「あかね農園」を訪問し、スタッフの皆様にお話を伺いました。



トマト生産責任者の高田俊彦さん
全国のトマト農家を視察しノウハウを蓄積している

ー農業に参入したきっかけは？ー

あかね農園は、介護施設や認定こども園を運営する社会福祉法人あかねが運営する農園です。

当法人の施設を利用するお客様に「本当に良い食品を届けたい。」という想いから、農薬や化学肥料を原則使用しない(※)農業を始めました。

ーどのような農業ですか？ー

トマト、いちじく、さつまいも、たまねぎ、葉物野菜等、いろいろな種類の農産物を2.6haの農地で栽培しています。主力はトマトで、ミニ・中玉・大玉をハウス栽培しています。

当農園のトマトは水分量を抑えているため、皮がしっかりしていて収穫後もやわらかくなりにくいこと、甘味と酸味のバランスが取れていることが特徴です。何もつけずにフルーツ感覚で召し上がっていただけます。トマトに苦手意識のあるお子様が当農園のトマトであれば食べられると聞いた時は、日々努力した甲斐があったと感じ、とても嬉しかったです。

また、規格外品のトマトやいちじくを廃棄せず何とか活用したいと考え、セミドライトマトとセミドライいちじくを製造しています。旨味がギュッと凝縮されているので、そのまま食べるのはもちろん、お料理にプラスして味の変化を楽しんでいただくのもおすすめです。

農産物と加工品は、当法人が運営する施設や直売所、インターネット販売、ふるさと納税の返礼品としてお届けしています。



丹精を込めて栽培したトマト（画像提供：あかね農園）



（左）セミドライいちじく
（上）セミドライトマト
（画像提供：あかね農園）



綺麗に飾り付けられた農園の直売所

ー今後の展望は？ー

農薬や化学肥料の使用を避けることは、病気や害虫などの影響を受けやすく、収量を安定させることが難しいです。言葉で言うほど簡単なものではありませんでしたが、スタッフの協力とお客様がいるからこそ続けてこられたと思っています。これからも病害虫の対策や温度・湿度の管理に気を配り、収量と品質をもっと上げていけたらと考えています。

(※) やむを得ない場合に限り、有機農産物の日本農林規格別表2に掲げる農薬を使用。

近畿農政局管内の野生鳥獣による農作物被害状況について（令和4年度）

農林水産省は、令和4年度の野生鳥獣による農作物被害状況について、都道府県からの報告を基にして、被害状況を取りまとめました。（都道府県は、市町村からの報告を基に被害状況の把握を行っています。）

被害状況の概要

1. 令和4年度の野生鳥獣による近畿農政局管内の農作物被害は約12億円(対前年度約1億2千万円減)、被害面積は約950haで、被害量は約5千3百tです。
2. 主要な鳥獣種類別の被害金額については、イノシシ約4億1千万円、シカ約3億4千万円、アライグマ約1億5千万円です。

府県別・鳥獣種類別被害額（R4年度）



詳しくは <https://www.maff.go.jp/kinki/press/keikaku/shigen/231128.html>



野菜 約50品種
栽培面積 約30a
(主に、さといも、
豆、ネギ)

「スマート農業技術の普及に向けたオンラインセミナー」を開催します

農業生産現場では、担い手の減少・高齢化の進行等により労働力不足が深刻化しており、農業の競争力を強化していく上でも、ロボットやAI等の先端技術を活用した作業の省力化・軽労化や栽培管理の効率化が喫緊の課題となっています。

このような中、政府は緊急的に取り組むべき対策として「食料安定供給・農林水産業基盤強化に向けた緊急対応パッケージ」を取りまとめ、スマート農林水産業による成長産業化を4本柱の1つとして位置付けています。

本セミナーでは、兵庫県内での先進的な取組等の紹介を通じて、スマート農業の導入・普及を推進することを目的に開催します。

**参加費
無料**

1.開催日時：令和6年2月7日（水）13:30～16:30

2.開催場所：オンライン会議（Webex）

3.開催内容：（1）兵庫県のスマート農業推進状況について
（2）リモコン式草刈機のシェアリングについて
（3）農社スマートビレッジの挑戦
（4）儲かる農業のススメ
（5）その他（情報提供等）

4.参加対象者：農業者、生産者団体、地方公共団体等

5.募集人数：定員:200名

6.申込方法：参加申込につきましては、インターネットによる受付フォーム
又は事務局宛にメールのどちらかの方法によりお申し込みください。

（申込締切：令和6年1月31日（水）17:00）

応募方法等は、兵庫県拠点ホームページをご覧ください。

<https://www.maff.go.jp/kinki/tiiki/kobe/index.html>



オンラインセミナー
スマート農業技術の普及に向けて

2024年2月7日（水）
13:30～16:30

下記二次元コードからお申込みください。

「お問合せ先」
近畿農政局兵庫県拠点
担当者：松本、伊東、小山、真部
☎ 078-331-5924

詳細は裏面をご覧ください

主催：農林水産省近畿農政局兵庫県拠点



BUZZMAFF「となりの近畿」について

農林水産省職員自らが、省公式YouTubeチャンネルでYouTuberとなるなど、我が国の農林水産物の良さや農林水産業、農山漁村の魅力を発信するプロジェクトです。

近畿農政局では、局内の若手職員を中心としたチーム「となりの近畿」を結成し、近畿農業の魅力を発信しています。

詳しくは <https://www.maff.go.jp/kinki/photo/kekka/video/b10.html>



兵庫の冬の風景

安志加茂神社のジャンボ干支飾り
（姫路市安富町）



ジャンボ干支は来年3月末まで飾られます。

編集後記

～鳥インフルエンザのシーズンです。～

11月末から今月にかけて佐賀県、茨城県及び埼玉県など相次いで発生しており、全国どこで発生してもおかしくない状況です。

現状においては、鶏肉や鶏卵を食べることによって、人が鳥インフルエンザに感染する可能性はないとされていますが、野生の鳥は、人に病気を起こす病原体を持っている可能性がありますので、特にお子様が死亡した野鳥等に直接触れないようご注意ください。（Y.M）

地方参事官ホットライン

農政に関するご相談、事業や制度へのご意見・ご質問などがございましたら、お気軽に地方参事官ホットラインまでお問い合わせ下さい。また、広報誌に対するご意見等もお待ちしています。